

① 支那軍ノ利用
 ② 特殊權益問題
 ③ 政務
 ④ 軍事
 ⑤ 經濟
 ⑥ 文化
 ⑦ 其他
 ⑧ 對支新政策ニ基テ陸軍側ノ華北關係ニ對スル態度ト關係
 ⑨ 支南支各島嶼ノ處理

海軍

海 南 島 嶼 關 係
 一、歸屬問題
 (一) 形態
 (二) 右ニ對スル處理
 (三) 左ノ各機關トノ關係
 (四) 國民政府
 (五) 瓊崖臨時政府
 (六) 大東亞省
 (七) 海南特務部
 (八) 海南警備府
 二、駐兵問題 (陸戰隊、航空隊、艦隊)
 (一) 戰爭中
 (二) 戰後

特殊權益問題
 特別關係
 陸軍側ノ華北關係
 支南支各島嶼ノ處理
 公使 (花岡 徳一)
 駐兵問題 (陸戰隊、航空隊、艦隊)
 戰爭中
 戰後

海軍

支那の

三 特殊權益問題

(一) 政務

(二) 軍事

(三) 經濟

(四) 文化

(五) 其他

四 對支新政策ニ基ク陸軍側ノ華北蒙疆ニ對スル態度ト關聯

五 南支各島嶼ノ處理

海軍

支那軍ノ利用

支那軍ノ利用

支那軍ノ利用

支那軍ノ利用

親展

大日本帝國政府及
中華民國國民政府ハ

大東亞地域ニ於ケル各國ノ自主獨立ヲ尊重シ其ノ發展ヲ實現スルト共
ニ各國緊密ニ協力シテ大東亞ニ於ケル安寧ヲ確保シ共同ノ建設ヲ行ヒ
其ノ福祉ヲ増進シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ之ガ障礙
タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確平不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

一、兩國政府ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ大東亞戰爭遂行ノ爲
軍事上政治上及經濟上有ラユル協力ヲ行フベシ

二、軍事行動繼續中日本國常駐軍事官憲ノ必要トスル軍事的措置ハ中華
民國ニ依リ許容セラルベシ

日華同盟條約(私案)

軍務局 志村局員

外系

特殊軍事條約

支那

支那軍ノ利用

軍

附屬秘密條約
同条
同条
同条

三 日本國ハ平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ハ兩國間ノ現行約定ニ基キ駐屯スルモノヲ除キ速ニ撤去ス

四 日華兩國共通ノ利益確保ノ爲所要期間中兩國間ニ別ニ協議決定セラレル所ニ從ヒ日本艦船部隊ハ中華民國領域内ニ於ケル特定地域ニ駐留スルコトヲ得

五 兩國政府ハ緊密ナル經濟提携ヲ行ヒ中華民國内ニ於ケル特定資源就中國防上必要ナル埋藏資源ニ關シ兩國緊密ニ協力シテ之ガ開發生産ヲ計リ相互ニ充分ナル便宜ヲ供與スルモノトス

兩國政府ハ中華民國ニ於テ戰爭遂行上必要ナル物資ノ獲得ヲ圓滑ナラシムル爲必要ナル措置ヲ講ズベシ

海軍

附屬秘密條約

(一) 日本國ハ兩國共通ノ利益確保上沿岸交通路ヲ維持シ其ノ安全ヲ擁護スル爲所要ノ艦船部隊ヲ揚子江沿岸特定地點並ニ華南沿岸特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ駐留セシメ兩國緊密ナル軍事上ノ協力ヲ行フト共ニ日本國艦船ハ中華民國領域内ノ港灣水域ニ自由ニ出入碇泊シ得ルモノトス

(二) 兩國ハ日本國軍隊ノ駐屯地域及之ニ關聯スル地域ニ於テ軍事上緊密ナル協力ヲ行フモノトス

海軍

●日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約 昭和十五年十二月三日
條約第十號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ裁可シ昭和十五年十一月三十日南京ニ於テ帝國全權委員ガ中華民國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ヲ附屬文書ト共ニ茲ニ公布セシム
(總理、陸軍、外務、大藏、海軍大臣副署)

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約

大日本帝國政府及

中華民國國民政府ハ

兩國相互ニ其ノ本然ノ特質ヲ尊重シ東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設スルノ共同ノ理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ相提携シ以テ東亞ニ於ケル恒久的ノ平和ヲ確立シ之ヲ核心トシテ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ希望シ
之ガ爲兩國間ノ關係ヲ律スル基本的原則ヲ訂立セント欲シ左ノ通協定
セリ

海軍

第一條

兩國政府ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ政治、經濟、文化等各般ニ亘リ互助敦睦ノ手段ヲ講ズベシ

兩國政府ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ亘リ相互ニ兩國間ノ好誼ヲ破壞スルガ如キ措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ亘リ之ヲ禁絶スルコトヲ約ス

第二條

兩國政府ハ文化ノ融合、創造及發展ニ付緊密ニ協カスベシ

第三條

兩國政府ハ兩國ノ安寧及福祉ヲ危殆ナラシムル一切ノ共產主義的破壞工作ニ對シ共同シテ防衛ニ當ルコトヲ約ス

兩國政府ハ前項ノ目的ヲ達成スル爲各其ノ領域内ニ於ケル共產分子及組

海軍

織ヲ芟除スルト共ニ防共ニ關スル情報、宣傳等ニ付緊密ニ協力スベシ
日本國ハ兩國共同シテ防共ヲ實行スル爲所要期間中兩國間ニ別ニ協議
決定セラルル所ニ從ヒ所要ノ軍隊ヲ蒙疆及華北ノ一定地域ニ駐屯セシ
ムベシ

第四條

兩國政府ハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ガ別ニ定ムル所ニ依
リ撤去ヲ完了スルニ至ル迄共通ノ治安維持ニ付緊密ニ協力スルコトヲ
約ス共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ニ於ケル日本國軍隊ノ駐屯地域其
ノ他ニ關シテハ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ據ル

第五條

中華民國政府ハ日本國ガ従前ノ慣例ニ基キ又ハ兩國共通ノ利益ヲ確保
スル爲所要期間中兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ其ノ艦船部
隊ヲ中華民國領域内ニ於ケル特定地域ニ駐留セシメ得ルコトヲ承認スベシ

第六條

海軍

兩國政府ハ長短相補ヒ有無相通ズルノ趣旨ニ基キ且平等互惠ノ原則ニ
依リ兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フベシ
中華民國政府ハ華北及蒙疆ニ於ケル特定資源就中國防上必要ナル埋藏
資源ニ關シ兩國緊密ニ協力シテ之ヲ開發スルコトヲ約諾ス中華民國政
府ハ其ノ他ノ地域ニ於ケル國防上必要ナル特定資源ノ開發ニ關シ日本
國及日本國臣民ニ對シ必要ナル便宜ヲ提供スベシ
前項ノ資源ノ利用ニ關シテハ中華民國ノ需要ヲ考慮シ中華民國政府ハ
日本國及日本國臣民ニ對シ積極的ニ充分ナル便宜ヲ提供スルモノトス
兩國政府ハ一般通商ヲ振興シ及兩國間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラ
シムル爲必要ナル措置ヲ講ズベシ兩國政府ハ揚子江下流地域ニ於ケル
通商交易ノ増進並ニ日本國ト華北及蒙疆トノ間ニ於ケル物資需給ノ合
理化ニ付テハ特ニ緊密ニ協力スベシ
日本國政府ハ中華民國ニ於ケル産業、金融、交通、通信等ノ復興發達

海軍

ニ付兩國間ノ協議ニ依リ中華民國ニ對シ必要ナル援助乃至協力ヲ爲ス
ベシ

第七條

本條約ニ基ク日華新關係ノ發展ニ照應シ日本國政府ハ中華民國ニ於テ
日本國ノ有スル治外法權ヲ撤廢シ及其ノ租界ヲ還付スベク中華民國政
府ハ自國領域ヲ日本國臣民ノ居住營業ノ爲開放スベシ

第八條

兩國政府ハ本條約ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル具體的事項ニ關シ更ニ
約定ヲ締結スルモノトス

第九條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名關
印セリ

海軍

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於
テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 阿部 信行 (印)

中華民國國民政府行政院院長兼 汪 兆 銘 (印)

附屬議定書

本日日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ兩國全
權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條

中華民國政府ハ日本國ガ中華民國領域内ニ於テ現ニ遂行シツツアル戰
争行爲ヲ繼續スル期間中右戰爭行爲遂行ヲ二件ヲ特殊事變ノ存在スル
コト及日本國ガ右戰爭行爲ノ目的達成上必要ナル措置ヲ執ルコトヲ諒
解シ之ニ應ジ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

海軍

前項ノ特殊事態ハ戰爭行爲繼續中ト雖モ戰爭行爲ノ目的達成上支障ナキ限り情勢ノ推移ニ應ジ條約及附屬文書ノ趣旨ニ準據シテ調整セラルベキモノトス

第二條

從前中華民國臨時政府、中華民國維新政府等ノ辨ジタル事項ハ中華民國政府ニ依リ繼承セラレ差當リ右現狀維持セラレタルモノナルニ依リ右事項ノ中調整ヲ要スルモノニシテ未ダ調整セラレザルモノハ事變之ヲ許スニ俾ヒ兩國間ノ協議ニ依リ條約及附屬文書ノ趣旨ニ準據シテ速ニ調整セララルベキモノトス

第三條

兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ日本國軍隊ハ本日署名セラレタル日本國中華民國關係ニ關スル條約及兩國間ノ現行約定ニ基キ駐屯スルモノヲ撤去ヲ開始シ治安確立ト共ニ二年

海軍

以內ニ之ヲ完了スベク中華民國政府ハ本期間ニ於テ治安ノ確立ヲ保障スルモノトス

第四條

中華民國政府ハ事變發生以來中華民國ニ於テ事變ニ因リ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償スベシ
日本國政府ハ事變ノ爲生ジタル中華民國難民ノ救濟ニ付中華民國政府ニ協力スベシ

第五條

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セララルベシ
右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ
昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

海軍

大日本帝國特命全權大使 阿部 信行（印）
中華民國國民政府行政院院長 汪 兆 銘（印）

附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項

本日日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ニ署名スルニ當リ右條約附議定書第一條及第二條ノ規定ニ關聯シ兩國全權委員間ニ左ノ了解成立セリ

第一 中華民國ニ於ケル各種徵稅機關ニシテ目下軍事上ノ必要ニ依リ特異ナル狀態ニ在ルモノニ付テハ中華民國ノ財政獨立尊重ノ趣旨ニ基キ速ニ之ガ調整ヲ計ルモノトス

第二 目下日本國軍ニ於テ管理中ノ公營、私營ノ工場、鑛山及商店ハ敵性ヲ有スルモノ及軍事上ノ必要等己ムヲ得ザル特殊ノ事情ニ

海軍

在ルモノヲ除キ合理的方法ニ依リ速ニ之ヲ中華民國側ニ移管スル爲必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

第三 日華合辦事業ニシテ固有資産ノ評價、出資比率其ノ他ニ付修正ヲ要スルモノアルニ於テハ兩國間ニ別ニ協議決定セララル所ニ從ヒ之ガ是正ノ措置ヲ講ズルモノトス

第四 中華民國政府ハ對外貿易ニ關シ統制ヲ必要トスル場合ハ自主的ニ之ヲ行フモノトス但シ條約第六條ニ掲ゲラレタル日華經濟提携ノ原則ト牴觸スルコトヲ得ズ又事變繼續中ニ於テハ右統制ニ付日本國側ト協議スベキモノトス

第五 中華民國ニ於ケル交通、通信ニ關スル事項ニシテ調整ヲ要スルモノニ付テハ兩國間ニ別ニ協議決定セララル所ニ從ヒ事態之ヲ許ス限リ速ニ之ガ調整ヲ計ルモノトス

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日南京ニ

海軍

於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國
命全權大使 阿部 信行 (印)
中華民國國民政府 汪 兆 銘 (印)

海軍

REEL No. A-1215

田中洞書

廈門特別市ニ關スル日華間取極ニ關スル電書

從來廈門特別市ト日本間トノ間ニ締結セラレタル諸取極ニ關シ協定スル

コト左ノ如シ

第一 左ノ諸取極ハ引續キ效力ヲ存スヘシ

一 昭和十五年三月十九日 大日本帝國海軍廈門方面特別根據地隊司令官

及廈門特別市市長間ニ署名セラレタル廈門特別市ニ於ケル日支軍事

協力ニ關スル協定竝ニ同附屬了解事項

二 昭和十五年十月十五日 大日本帝國海軍廈門方面特別根據地隊司令官

及廈門特別市市長間ニ署名セラレタル廈門ニ

於ケル日本海軍用地設定ニ關スル日華間協定竝ニ同附屬電書

第二 左ノ諸取極ハ夫々左ニ掲ケル修正ノ下ニ引續キ效力ヲ存スヘシ

一 昭和十五年十月十五日 大日本帝國海軍廈門方面特別根據地隊司令官

及廈門特別市市長間ニ署名セラレタル廈門特

別市ニ於ケル日華提携ニ關スル協定

右協定中第二ノ項ヲ削除ス但シ廈門特別市ニ於ケル日本人顧問及職

員ニ關シテハ中華民國駐節大日本帝國特命全權大使ト中華民國國民

政府外交部長トノ間ニ別ニ協議決定セララル所ニ依ル

二 昭和十七年十一月一日 大日本帝國海軍廈門方面特別根據地隊司令官

在廈門大日本帝國總領事及廈門特別市市長間ニ署名セラレタル廈門

特別市ニ關スル諸協定等ノ效力ニ關スル電書

右電書中從來ノ諸取極ノ效力ノ確認ニ關スル部分ヲ削除ス

第三 左ノ諸取極ハ廢止セララルヘシ

秘

一、昭和十四年七月一日 興亞院廈門連絡部長官、廈門等別市市長及廈門治安維持會會長間ニ署名ヒラシタル廈門特別市ニ關スル日華間協定事項

二、昭和十五年十月十五日 大日本帝國海軍廈門方面特別根據地隊司令官 興亞院廈門連絡部長官及廈門特別市市長間ニ署名ヒラシタル廈門特別市ニ關スル諸取極ノ效力ニ關スル協定

昭和十八年三月二十五日 廈門ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本條各三條ヲ作成ス
本條各ハ之ヲ公表ヒサルモノトス

大日本帝國海軍廈門方面特別根據地隊司令官 原田清一印
大日本帝國 興亞院 赤堀鐵吉印
中華民國廈門特別市市長 李恩賢印

中華民國ノ在留日本國臣民ニ對スル課稅承認要領

第一、方針

治外法權撤廢問題中中國側課稅承認ニ關スル具體案ノ内容ハ「租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定」ノ本旨ニ從ヒ「大東亞戰爭完遂ノ爲メ對支處理根本方針」ノ趣旨ヲ具現スル如ク之ヲ定ム

但シ在留邦人ノ生活活動ニ對シ急激ナル變動ヲ與アルカ如キ結果トナラサル様留意スルモノトス

第二、要領

一、中國側課稅ノ承認

中華民國領域内ニ在留日本國臣民、中國側課稅ニ服スルノ原則ヲ包括的ニ承認スルコト

右承認ノ形式ハ條約ニヨルコト

日本國臣民ノ服スヘキ中華民國ノ課稅ニ關スル法令ノ範圍及適用ノ態樣ハ當分ノ間豫メ在華帝國大使ト國民政府外交部部長ト

ノ間ニ協議決定セラルヘキモノトスルコト

日本國臣民ノ納稅確保ニ關スル措置

當分ノ間中國側ノ日本國臣民ニ對スル緩簿検査、強制徵收、處罰等ノ強制力ヲ伴フ處分ハ之ヲ認メサルモ日本國臣民ノ中國側ニ對スル納稅ヲ確保シ得ル様日本側ニ於テ所要ノ措置ヲ講スルモノトスルコト

三、特定税種ニ關スル特殊措置

(1) 所得税、營業稅及之ニ該當スル租稅ニ付テハ稅額ヲ協定シ民

國民會ニ於テ代徵等ノ方法ヲ採ルコト

右協定稅額ハ在留日本國民ノ中華民國人ニ對スル人口比率

並經濟力等ヲ勘案シ決定スルコト

(2) 他ノ稅種特ニ地方稅中課稅標準ノ決定並徵收等ニ付邦人納稅

者ト徵稅機關トノ間ニ紛爭ヲ生スル虞アルモノニ付テハ特別

ノ措置ヲ協定スルコト

四、民國稅(民會課金ヲ含ム)トノ調整

民國國民會ノ所得稅、營業稅、特殊營業者稅ト同様ノ稅種ハ昭和

十九年三月迄ハ中國側ニ於テ課稅セサルコト

五、民國國民會ノ事業及財政ノ調整

民國國民會ノ事業ニ付テハ稅收入ノ減少ニ伴ヒ所要ノ調整ヲ加フ

コト

右措置後ニ於ケル公共事業ノ運營ニ付テハ努メテ支出ノ節減、

財源ノ調達ヲ圖リ教育衛生其他ニ關スル已ムヲ得サル不足額ニ

付テハ國庫補助増額等適當ノ方法ヲ考慮スルコト

六、日本側公共施設ニ對スル免稅

中國側ハ民國國民會公益團體等ニ對シテハ原則トシテ課稅セサル

コト

七、中國側租稅制度ノ整備

中國側ハ國稅、地方稅ニ亘リ速ニ制度ヲ整備スルマト

備考

中國内地開放へ本條約締結ノ條件トセサルモ別途之カ促進ヲ
圖ルコト

「中華民國ノ在留日本國臣民ニ對スル課税承認要領」
ニ關スル說明

第一、方針ニ付テ

帝國政府ハ本年一月四日閣議決定「對支處理根本方針」第二要領
ノ付ニ從ヒ中華民國ニ於ケル治外法權ハ中國ノ主權及領土尊重ノ
趣旨ニ基キ速ニ之カ撤廢乃至調整ヲ圖ル方針ノ下ニ先ヅ中華民國
ノ在留日本國臣民ニ對スル課税ヲ承認スルコトトセルカ中華民國
ニ於ケル日本國臣民ハ從來治外法權ニ基キ帝國カ條約ニ依リ明示
的承認ヲ與ヘタルモノヲ除キ全面的ニ中國側課税ニ服セサル地位
ニアリタルニ鑑ミ今次課税ノ承認ニ依リ中國側課税ニ全面的ニ服
スルニ至ル場合ハ日本國臣民ハ中國側ノ措置如何ニ依リテハ其ノ

生活活動ニ急激ナル變動ヲ蒙ルニ至ル俱アリ右ハ帝國ノ對居留民
施策上ハ固ヨリ日華協力ノ根本精神ニ鑑キ努メテ之ヲ避クルヲ要
スル次第ナリ從テ本要領ニ於テハ一面中華民國自主權尊重ノ建前
ヲ維持スルト共ニ他面在留民ノ生活活動ニ急激ナル變動ヲ與ヘサ
ル様留意シ之カ爲所要ノ條件ヲ附スルコトトセリ

第二 要領

一 中國側ノ課税承認ニ付テ

第一項ニ於テ中華民國領域内ニ在ル日本國臣民カ包括的ニ中國
側課税ニ服スルノ原則ヲ定メタルハ治外法權ノ逐次撤廢ニ關ス
ル日華間協定ノ一部結實ヲ圖ラントスルノ根本方針ヲ明確ナラ
シメタルモノナリ

第二項ニ於テ右原則ノ承認ハ之ヲ條約ニ據ルコトト定メタルハ
帝國臣民カ中華民國ニ於テ中國側課税ニ服セサルノ地位ハ條約
ニ緣由スルモノナルニ鑑キ同シク條約ヲ以テ之ヲ變更スル要アリ
ト認メタルニ依ル

第三項ニ於テ日本國臣民ノ服スヘキ中華民國ノ課税ニ關スル法
令ノ範圍及適用ノ懸様ハ當分ノ間在華帝國大使ト國民政府外交
部長トノ間ニ協議決定セラルヘキモノトシタルハ中國側租税制
度ノ極メテ不備ナル實情ニ則シ營分ノ間中國側ヲシテ在支居留
民ノ生活活動ニ對シ急激ナル變動ヲ齎ス惧アル課税ヲ爲サシメ
サル様配意スル要アルヲ以テ之カ爲中國側ヲシテ課税ノ實施ニ
當リ當分ノ間事前協議ヲ爲サシムルヲ適當ト認メタルニ依ルモ

日本國臣民ノ納稅確保ニ關スル措置ニ付テ

帝國政府ハ本要領ニ依リ在留日本國臣民ヲシテ包括的ニ支那ノ課稅ニ服セシムルコトトナスモ中國側租稅制度ノ現況ニ於テハ徵稅法規統一ヲ缺キ且不明確ナルモノ多々存スルノミナラス其ノ徵稅振モ亦極メテ亂脈ニ流レ居ル實情ニ在リ加フルニ今次ノ措置ハ差當リ課稅問題ニ限定シ領事裁判權、警察權等ハ當分ノ間其ノ儘存續セシムル次第ナルヲ以テ中國側ヲシテ課稅ニ關聯シ日本國臣民ニ對スル帳簿検査、強制徵收、處罰等ノ強制力ヲ行使セシムルハ適當ナラスト認メタルニ依ル

但シ中國側ノ課稅ヲ承認シツツ他方ニ於テ之カ徵收ニ關スル強

制力ノ行使ヲ認メサルニ於テハ納稅ノ實效ヲ期スルコト極メテ困難ナルヲ以テ當分ノ間日本側ニ於テ適當ナル法制的措置ヲ講ヌルト共ニ邦人指導ニ關スル實際的措置ヲ以テ中國側ニ對スル納稅ノ實效ヲ確保センコトヲ期シタリ

三、特定稅種ニ關スル特殊措置ニ付テ

(イ) 民國ノ所得稅、營業稅等ト同様ノ稅種ニ付協定稅額ヲ支拂フコト及右協定稅額ハ一定ノ比率ニ依リ之ヲ決定スルコトトセルハ此等直接稅カ中國側租稅制度中最も不備且信賴シ得サル現狀ニ鑑ミ同稅ノ賦課ヲ無條件ニ認ムルニ於テハ在支居留民ノ生活活動ニ甚大ナル影響ヲ及ボス惧アリト認メラルルノミナラス此種稅目ハ同時ニ民國稅收ノ大宗ナル爲民國稅收ニ著

レキ影響ヲ及ホス惧アリ從テ此等ノ課税ニ付テハ帝國ノ承諾
シタル一定稅額ヲ支拂フコトニ依リ中國側稅收ノ増加ヲ圖ル
ト共ニ他方民國會ノ事業及在支居留民ノ生活活動ニ對シ急
激ナル變動ヲ與フルコトヲ回避スルコトトセリ

(四) 他ノ稅種特ニ地方稅ニ付テモ課稅標準ノ決定並徵收等ニ付邦
人納稅者ト徵稅機關トノ間ニ紛爭ヲ生ヌル虞アルモノニ付テ
ハ特別ノ措置ヲ協定シ中國側課稅ノ圓滑ナル實施ヲ期シタリ

(五) 前記(四)ハ何レモ第二要領一ノ第三項ニ依リ在華帝國大使ト
國民政府外交部長トノ間ニ協議決定セラルヘキモノナリ

四 民國稅 (民會課金ヲ含ム) トノ調整

中國側ヲシテ民國ノ所得稅及營業稅ト同様ノ稅種ヲ明年三月迄

課稅セシメサルニ付トシタルハ此等稅種ヲ協定稅額ノ基礎ニ於
テ納稅スル場合ニ於テモ猶民國稅收ニ對シ相當ノ減收トナルヘ
キヲ以テ既ニ本年度豫算實施中ノ民國ニ對シ著シキ影響ヲ及ホ
ス惧アリト認メタルニ依ルモノナリ從テ右課稅ハ明年迄之ヲ認
メサルコトトシ其間必要ナル準備ヲ進ムルコトトセリ

民國ノ特殊營業者稅ト同様ノ稅種ヲ延期セシムルハ中國側ノ本
稅ニ該當スヘキ妓女捐等ノ邦人ニ對スル課稅ノ當否ニ付猶疑問
アルヲ以テ更ニ研究ヲ爲スタメノ時間的餘裕ヲ得ンカ爲ナリ

五 民國會ノ事業及財政ノ調整

民國會ハ教育衛生其他在留民ノ福祉増進ノ爲ニ必要ナル各種
事業ヲ經營シ居ルヲ以テ此等事業ノ財政的基礎タル民國ノ收入

ニ急激ナル影響ヲ及ボスカ如キ措置ハ努メテ之ヲ回避スル要アリ
リ從テ少シトモ本年度ニ於テハ成ルヘク民團ノ收入減少ヲ來サ
シメサル如キ稅種ノ課稅ヲ認ムルコトヲ豫定シ居ル次第ナリ然
レ共明十九年度以降ニ於テハ相當ノ收入減ヲ來スヘキヲ以テ民
團社會事業中一部ヲ他機關ニ移管スル等調整ヲ加フルノ要アリ
而シテ民團社會ノ繼續事業並ニ他機關移管事業ノ運営ニ付テハ
一般的ニ經費ノ節減及財源ノ調達ニ努ムルコト勿論ナルカ猶生
ヌヘキ不足額ニ付テハ國庫補助増額ノ措置ヲ講シ居留民ノ福祉
施設ノ維持ニ支障ナカラシムルコト肝要ナリ

六 日本側公共施設ニ對スル免稅ニ付テ

民團社會ノ如キ公共團體並同仁會、同文會等ノ公益團體ニ對シ

テハ中國側ヲシテ原則トシテ免稅セシムルヲ適當ト認メタルニ
依ル

中國側租稅制度ノ整備ニ付テ

帝國カ中國側課稅ヲ認ムルニ當リ一定ノ條件ヲ附シタルハ實ニ
中國側租稅制度ノ不備ナル現實ニ備ヘンカ爲ニ外ナラス帝國ト
シテハ中國カ完全ナル課稅自主權ヲ行使スヘキ日ノ一日モ速カ
クテラレトヲ欲スルモノナリ從テ中國側ニ於テ速ニ租稅制度整
備ノ實ヲ舉ケ以テ財政ノ基礎ヲ確立スルト共ニ併セテ課稅自主
權ヲ名實共ニ確立スヘキヲ要求セリ

八 備考ニ付テ

租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定ハ治

外法權ノ撤廢ニ伴ヒ中國側カ内地開放ヲ爲スヘキ旨規定シ居ル
處今回ノ中國側課稅承認ハ建前上治外法權ノ一部撤廢ナルモ猶
幾多ノ條件ヲ前提トナシ居リ之ヲ以テ直チニ中國側ヲシテ内地
開放ヲ約セシムルハ諸般ノ關係上適當ナラスト認メラセタリ仍
而内地開放ニ付テハ更ニ別途之カ促進ヲ圖ルコトトセリ

極
祕

中華民國ニ於ケル日本國臣民ニ對スル
課稅ニ關スル日本國中華民國間條約

中華民國ニ於ケル日本國臣民ニ對スル課税ニ關スル日本國中華民間
條約

大日本帝國政府及
中華民國國民政府ハ

昭和十八年一月九日即チ中華民國三十一年一月九日調印ノ戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣
言ノ本旨ニ從ヒ

同日調印ノ租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民間協定ノ規定ニ基キ

日本國ガ中華民國ニ於テ有スル治外法權ニ關シ先ヅ日本國臣民ニ對スル中華民國ノ課税ニ關スル法令
ノ適用ニ付左ノ通協定セリ

第一條

日本國臣民ハ中華民國ノ領域内ニ於テ本條約附屬協定ノ定ムル所ニ從ヒ同國ノ課税ニ關スル法令ニ服
スベシ

本條ノ適用ニ關シ日本國臣民ハ如何ナル場合ニ於テモ中華民國國民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受クルコ
トナカルベシ

前二項ノ規定ハ之ヲ法人ニ適用シ得ル限リ日本國法人ニ適用スルモノトス
第二條
本條約ハ昭和十八年八月一日即チ中華民國三十二年八月一日ヨリ實施セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日
本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス
ニ於テ日

附屬協定

本日中華民國ニ於ケル日本國臣民ニ對スル課税ニ關スル日本國中華民國間條約ニ署名スルニ當リ兩國
全權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條

條約第一條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ中華民國法令ノ範圍及適用ノ態様ハ中華民國政府外交
部部长ヨリ豫メ之ヲ中華民國駐劄大日本帝國特命全權大使ニ通報スベシ

第二條

條約第一條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ中華民國法令ノ日本國臣民ニ對スル適用及執行ニシテ
司法手續ニ依ルベキモノハ日本國臣民ガ中華民國ノ裁判管轄權ニ服スルニ至ル迄日本國領事官ニ於テ
之ヲ行フモノトス

前項ノ場合ニ於テハ日本國領事官ハ領事裁判ノ一般準則ニ從ヒ中華民國當該法令ヲ適用スベシ
本條ノ規定ニ依リ罰金等ノ言渡アリタル場合ニ於テ其ノ罰金等ハ中華民國ニ歸屬スベシ

第三條

條約第一條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ中華民國法令ニ基ク中華民國當該官憲ノ行政處分ニ對

シ日本國臣民ニ於テ不服アルトキハ中華民國政府ハ之ガ救正ニ付適當ナル措置ヲ講ズベシ

第四條

中華民國政府ハ速ニ其ノ現行租稅制度ヲ整備スベシ

第五條

條約第一條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ中華民國法令ノ範圍及適用ノ態様ハ夫々日華兩國ノ官報ニ公示セララルベシ

第六條

本協定ハ條約ト同時ニ實施セララルベシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本協定ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日 於テ之ヲ作成ス

中華民國ニ於ケル日本國臣民ニ對スル課稅ニ關スル日本國中華民間條約ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項

本日中華民國ニ於ケル日本國臣民ニ對スル課稅ニ關スル日本國中華民間條約ニ署名スルニ當リ本條約實施ニ付テノ暫定的措置トシテ兩國全權委員間ニ左ノ了解成立セリ

第一 附屬協定第一條ニ付

當分ノ間中華民國政府外交部部長ハ日本國臣民ノ服スベキ中華民國ノ課稅ニ關スル法令ノ範圍及適用ノ態様ニ付中華民國駐劄大日本帝國特命全權大使ト十分協議スベク右協議ニ於テ決定セララル所ニ從ヒ本條ノ通報ヲ爲スベキモノトス

第二 附屬協定第二條ニ付

本條ノ規定ハ中華民國駐劄大日本帝國特命全權大使ト中華民國政府外交部部長トノ間ニ別ニ協議決定セララル迄適用セラレザラルベシ

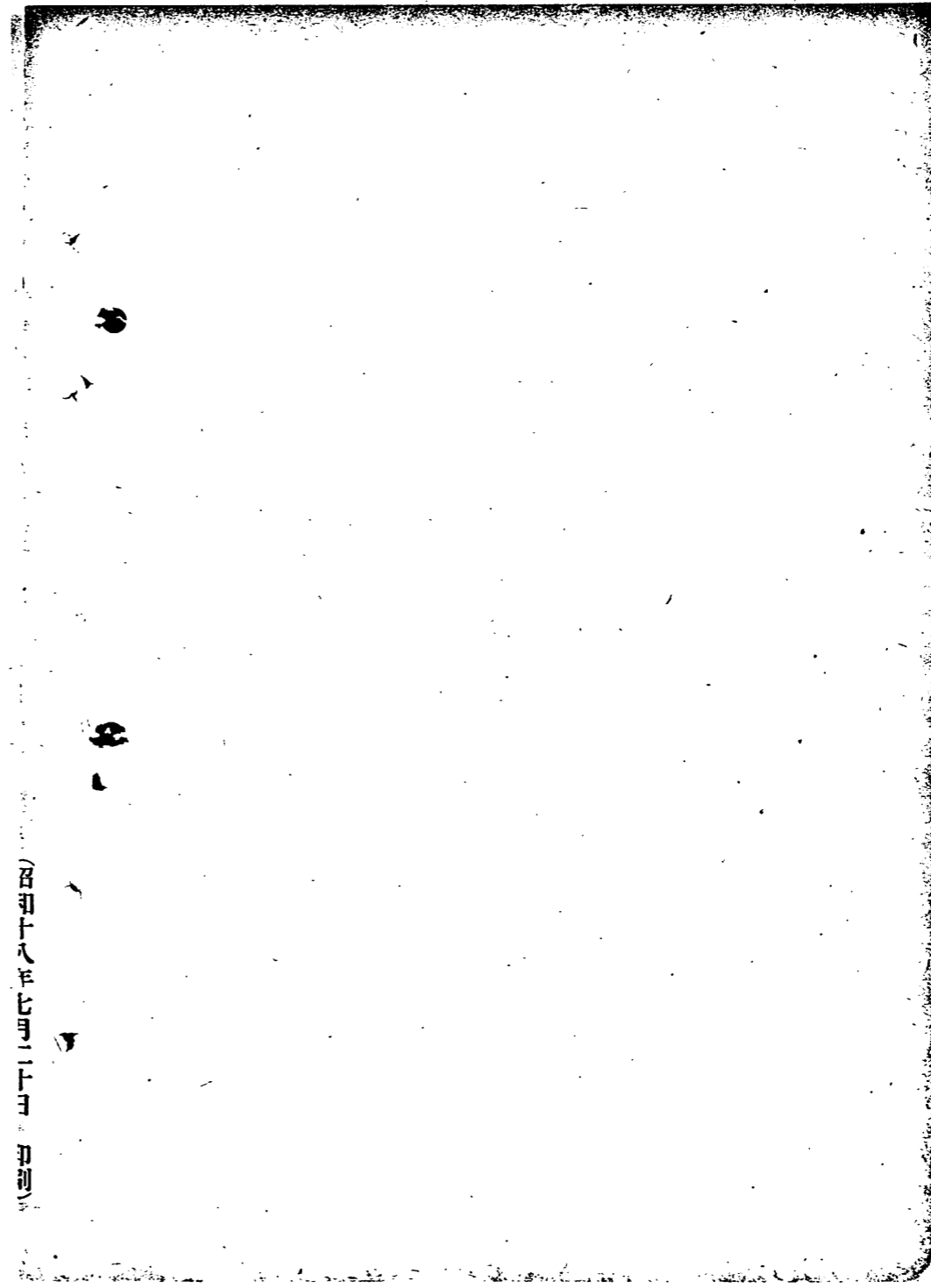
第三 附屬協定第三條ニ付

當分ノ間中華民國政府ハ日本國臣民ノ服スベキ中華民國ノ課稅ニ關スル法令ニ基テ行政處分ニシテ強制力ヲ用フルモノハ之ヲ爲サザラルモノトス

第四 本了解事項第二及第三ニ付
日本國政府ハ日本國臣民ヲシテ本條約ニ基キ納稅セシムル爲別ニ必要ナル措置ヲ執ルベキモノトス
昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日
ヲ作成ス

六

REEL No. A-1215



昭和十八年五月二十三日
印刷

REEL No. A-1215



親展
軍極秘

大東亞省
田中大蔵

對支新政策實施經過ノ件

志村

一、大東亞省現地機關ノ弱体ノ爲仕事ノ引繼ヲ受クルモ名義ノミノ轉移
ニ止マリ事務ハ停頓シアリ

(イ) 大東亞省現地機關ハ專務所内ノ事務ニ追ハレ街頭ニ出ヅル餘力ナ
シ

(ロ) 大東亞省ハ外務省化シ公使ノ統制ニアルハ外務省系ノミニシテ事
務ノ統一不可能ナリ

(ハ) 大東亞省現地機關ハ紙上ノ計畫ヲ行フノミニシテ實行ニ對スル監
督支援ヲサザルヲ以テ實行力殆ンドナシ

(ニ) 大東亞省現地機關ノ地方機關ノ現狀ハ老朽ノ副領事書記生級ニシ
テ殆ンド無能ニ近シ

尙現在地方機構強化ノ爲地方へ轉出セザルメントスルモ希望者ナシ
中ニハ地方轉出ヲ慮レ在上海商會ニ就職ヲ希望スルモノアリ

海軍

六、大蔵省の所管する事務
 七、大蔵省の所管する事務
 八、大蔵省の所管する事務
 九、大蔵省の所管する事務
 十、大蔵省の所管する事務
 十一、大蔵省の所管する事務
 十二、大蔵省の所管する事務
 十三、大蔵省の所管する事務
 十四、大蔵省の所管する事務
 十五、大蔵省の所管する事務
 十六、大蔵省の所管する事務
 十七、大蔵省の所管する事務
 十八、大蔵省の所管する事務
 十九、大蔵省の所管する事務
 二十、大蔵省の所管する事務

三 中 國 側 ニ 委 管 セ ラ レ タ ル モ ノ ハ 利 權 ノ 對 照 ト ナ リ 本 末 ノ 機 能 ヲ 發 揮
 シ 得 ズ
 (イ) 敵 産 ノ 移 管 ハ 之 カ 歸 屬、權 限、企 業 者 可 等 ニ 關 連 シ 利 權 屋 (變 更) 人
 ト 結 托 ス ル) ノ 對 照 ト ナ ル
 (ロ) 物 資 交 流 事 務 ハ 收 賄 ノ 具 ト ナ リ 交 流 ヲ 疎 害 シ 物 價 ノ 騰 貴 ヲ 來 シ ツ
 ツ ア リ
 (ハ) 物 資 ノ 蒐 集 ニ 當 リ テ ハ 人 ハ 「ブ ロ ー カ ー」 又 ハ 商 社 ト 結 托 シ 國
 籍 ニ ス ル モ ノ 多 ク 一 般 市 場 ニ 出 ツ ル 量 少 シ
 三 所 見
 以 上 ノ 事 實 ハ 概 観 ヲ 述 ベ タ ル モ ノ ニ シ テ 全 部 ガ 全 部 ト イ フ ニ 非 ズ 但
 シ 以 上 ノ 傾 向 ガ 新 政 策 實 施 後 如 果 ガ 現 ハ レ ザ ル 原 因 ニ シ テ 對 支 政 策
 ヲ 論 ス ル ニ 當 リ 左 ノ 事 項 ハ 充 分 顧 へ 入 レ オ ク ヲ 要 ス ル モ ノ ト 認 ム
 (イ) 支 那 ニ 於 テ ハ 理 論 通 リ ニ 行 カ ズ
 (ロ) 新 政 策 ノ 効 果 ヲ 期 得 ス ル 迄 ニ ハ 相 當 期 間 ヲ 要 ス

海 軍

本

日本鋼管青島製鐵所ノ經營形態ニ關スル件

(二八七三二)

日本鋼管青島製鐵所ノ經營形態ニ關シテハ當面ノ事態ニ即應シ大東
亞省原案通り現在ノ業務ヲ目的トスル北支那開發株式會社ト日本鋼
管株式會社トノ出資組合(民法上ノ組合)ニ依ルモノトス

說 明

一、特殊高爐建設ハ戰時緊急對策トシテ實施ヒラレアルモノニシテ之
ノ基本設備ノ壽命ハ概ネ三―五年間ト想定ヒラル、依ツテ之ガ經
營形態ヲ新ニ恒久的組織タル株式會社ノ設立ニ依ラズ當面ノ事業
經營(該炭副產物製造販賣ヲ含ム)ヲ主眼トシ實質的ニ會社ト差
違ナキ民法上ノ組合ニ依ルヲ尤モ妥當便宜ナリトス

大 東 亞 省

二、高爐ノ壽命經過ニ對應シ青島製鐵所ノミナラズ他ノ小型熔鐵爐ニ
付テモ全面的ニ原料、輸送其ノ他ノ諸條件ヲ再檢討ノ上逐次之ヲ
改造又ハ新設シ本格的設備ニ移行スルコトヲ豫想シテ其ノ際更
メテ全體ヲ綜合的ニ勘案シタル上北支那ニ於ケル製鐵業(製鋼ヲ
含ム)ノ最モ合理的ナル開發統制ニ關スル具體的計畫、恒久的形
態等ヲ決定スベキモノトス

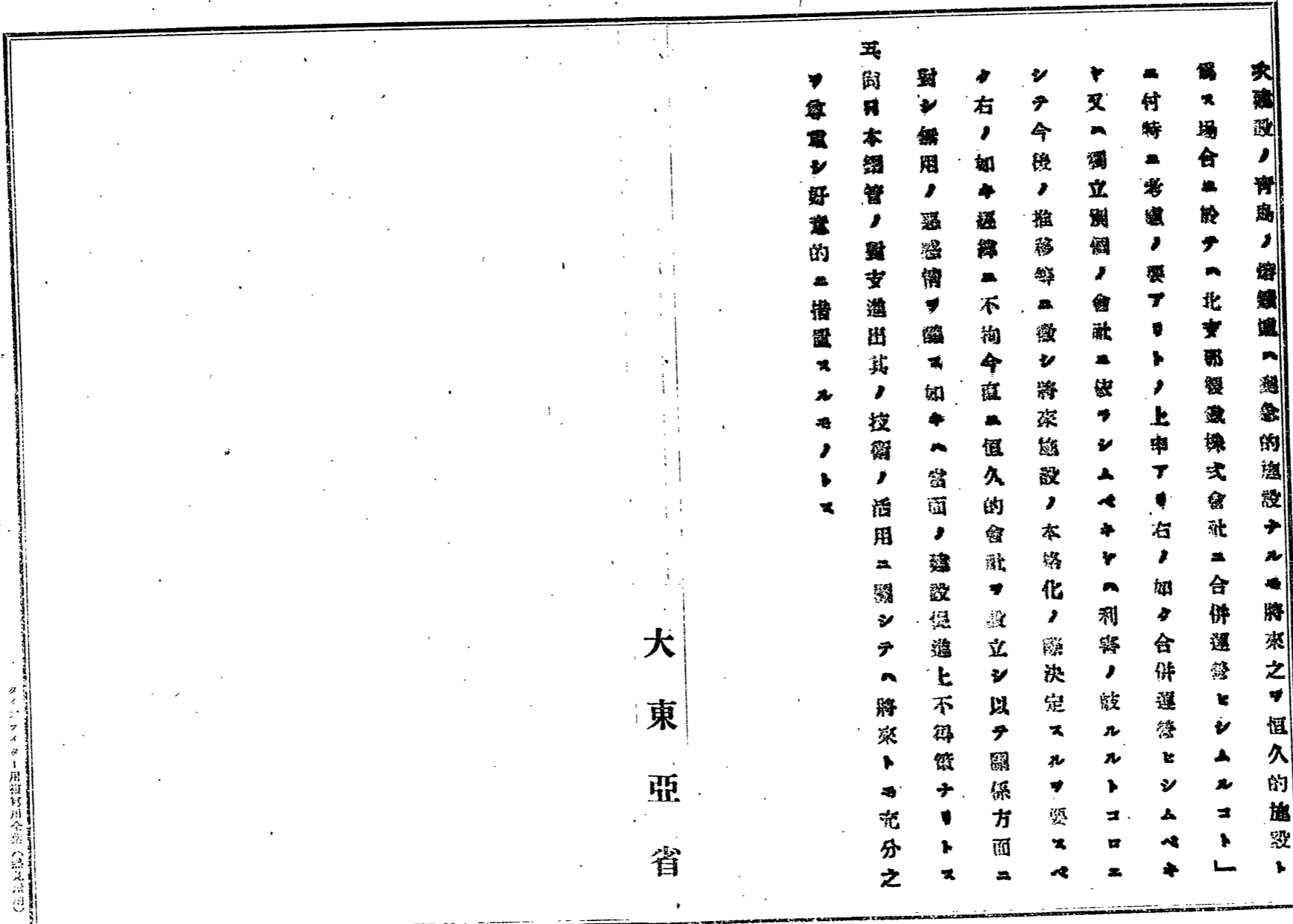
三、仍テ目下ノトコロ青島製鐵所ニ付テ今直ニ之ヲ本格的會社ト爲シ
且統制一貫ノ施設事業定款ニ規定スルガ如キハ聯カ早計ニ關シ北
支那ニ於ケル製鐵業全般ノ開發統制ニ關スル恒久方策トノ關聯ニ
於テ今後ノ情勢ヲ考慮シ更ニ慎重考究ヲ要スルモノトス

四、本件青島高爐建設ニ關シテハ二月二十二日鐵鋼統制會長ニ「今

(東京2102) (日本標準規格B4)

次建設ノ青島ノ港鐵道ハ緊急の施設ナルモ將來之ヲ恒久的の施設ト
 爲ス場合ニ於テハ北支那鐵道株式會社ニ合併運營ヒシムルコト
 ニ付時ニ考慮ノ要アリトノ上申テ右ノ如ク合併運營ヒシムルベキ
 ヲ又ハ獨立別個ノ會社ニ依ラシムルベキハ利害ノ岐ルルトコロニ
 シテ今後ノ推移等ニ徴シ將來施設ノ本格化ノ際決定スルヲ要スベ
 ク右ノ如ク選擇ニ不拘今直ニ恒久的の會社ヲ設立シ以テ關係方面ニ
 對シ無用ノ惡感情ヲ醸ス如キハ當面ノ建設促進上不再策ナリトス
 其尙日本鐵道ノ對支進出其ノ技術ノ活用ニ關シテハ將來トモ充分之
 ヲ尊重シ好意的ニ措置スルモノトス

大東亞省



タニフイター用複寫用全書(總式第2102)

(第2102) (日本標準規格 B4)

No. 1

大日本帝國政府

日支間條約に於ける日本臣民の權利義務

通商航海條約 (明29.7.21)

第一條 兩國臣民は各々兩締盟国の一方に於て其の身分及び財産に對し等しく完全なる保護を享有すべし

二 (一) 外交官領事官の最惠國待遇

四 日本國臣民の諸港諸市に往來居住營業の自由 最惠國待遇附與

五 日本國船舶は諸港諸市寄港に現行章程に従ひ寄港することを得 客商は改收せざるべきこと

(圖定規格55.6×35.7)

No. 2

大日本帝國政府

六 旅券に關する規定 (開港地より一百海里以内) 五日 同右限度とし旅券不用但し水夫を除く

七 諸國臣民雇入權

八 荷物旅客運搬用の船隻賃借權

九 日清間の貿易に關する税目税則は最惠國待遇

十 開港場南を運搬中諸物の税金を取立し得ず

十一 清國內地市場に入る運搬品あり批代税の支拂を以て通過税の免除を受けるを得 (阿片を除く)

(圖定規格55.6×35.7)

5.

大日本帝國政府

二五 日清開港條約諸條款に據り一切の特権を免除
 利害を再確定 及びその將來の最惠国待遇

二六 十年間の自働的更新規定

二七 施行細則

二八 解釋

二九 附交換

(規定規格B5(18x25)縦横)

大日本帝國政府

一 條 專有
 居留地と領事官管轄及地方警察の權

二 條 洋商蘇杭德三處通商新章條内汽船及權
 入又は所有の船隻に關する事

三 條 清國に於ける日本臣民の製品に對する清國の課税
 權 上海天津廈門漢口日本專有居留地を
 用ひて之を課税す

四 條 日本國軍隊官領地經濟線より五里以内を清國
 軍隊接近せざること

議定書 明治廿九年十月十九日

(規定規格B5(18x25)縦横)

大日本帝國政府

追加通商航海條約(明治36.10.8)

一、

附加税、海關、最惠國待遇

(及海關の税金、權利、特權)

二、揚子江宜昌重慶間の急流上の爲の設備に關する規定

三、日本國汽船の内河航行權

四、兩國臣民合同の組合會社を組織せる場合の公平義務並に兩國裁判所の義務履行強制

(規定規格55(六)×三三規格)

大日本帝國政府

一、登録商標に關する規定

二、海運自營に關する規定

三、度量衡に關する規定

四、内地水路航運規則改正の件

五、本條約の條約及附屬規定に其の効力を確立す

日本國の政府官吏臣民通商航海運賃工業及一切の財産は最惠國待遇を受く
日本國の對日本國の事、有國官吏及び臣民

(規定規格55(六)×三三規格)

大日本帝國政府

一、汽船轉賣の自由
 二、内地航路航行に際する損害賠償の責任
 三、日本國商人は右倉庫埠頭及び引揚船と
 同様にして諸税及び賦課をすべし、使用人は
 清國のみならずとす
 四、埠頭は海關稅務司の認可を得て築造し得
 五、日本國汽船所有者は水路沿岸に於て倉庫
 及び埠頭賃借の自由、但し二十五年を越えざ
 る期間

通商南洋航路條約 附屬第一号 (明治36.10.8)

(規定規格55(1)×35(1)種)

大日本帝國政府

十、直轄省に駐在する外國軍隊及び公使館警
 衛兵を總て撤退し、其の場を引揚船に清國の
 北京市内一地区開放義務
 湖南省長沙府を外國貿易の爲め開くべきこと
 安徽省奉天府及大東溝を開くべきこと
 果側の
 十一、領外法權撤去の意向あり
 十二、解放
 十三、批准交換

帝國法律規則の許す限り優遇付与

成り

(規定規格55(1)×35(1)種)

大日本帝國政府

六、 禁制輸送の禁止罰則

七、 汽船來船に因り陸境 新水路開設を届出

八、 登録汽船の航行の自由 但し清國政府の同意 無き場合專ら内地向のみ往復することを得ず

九、 商船客船の受船の船舶地手^又乗組人^又清國人に限る 内地向け航船船舶は又登録とし

十、 附則

(規定規格 5 12 x 31 5 12 種)

大日本帝國政府

追加通商航海條約 附屬第六号第七号

未輸

本條約第十條(批各國公使館着衛兵及通商 港衛兵の撤回を有する場合に於ける北京の処置) に關し北京内城外に各國商人居住營業の場 所の設置許可、右場処内の道路橋梁は清 國官廳之を管轄し居住外國人の清國 領内と同しく其の地方又警察規則を遵守 せし清國官廳の承諾を得し地方は場及 警察官を用くことを得 外國人は右場処に 集結すべし 在籍右承諾

明 36.10.8

(規定規格 5 12 x 31 5 12 種)

田中調查手帳

極秘

對支處理根本方針策定後、施策概況 (昭和十八年五月三十日現在)

甲、對支處理根本方針第二要領、一、「國民政府、政治力強化」政策事項
第一、實施事項

事項	項	實施期日	備考
一、戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言ノ締結		一月九日	
二、租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定ノ締結及實施		一月九日	
	措置要領		
	訓令發出		
	取極調印		
	實施		
	備考		
(一) 在支專管租界二月十七日	二月二十日	三月十四日	二月九日帝國委任命
(二) 上海共同租界二月廿四日	三月十一日	三月三十日	後記參照

白 廈門鼓浪嶼共同租界二月廿四日	三月九日	三月廿七日	五月廿八日
白 北京公使館區域二月十七日	二月廿四日	三月廿二日	三月三十日
白 治外法權二月廿四日	三月五日		後記參照

(註) 一、治外法權關係「措置要領」ハ、「具體案作成要領腹案(主務者案)」ナリ
二、(二)乃至(四)、第三國關係事項ハ、後記參照

特殊事態ノ調整

(一) 中華民國國旗、黃色布片除去

白 蒙 疆

(1) 蒙古自治邦旗、邦域外ニ於ケル揭揚制限
(中華民國國旗ト對立的場所ニ揭揚セス)

二月

二月五日

白 華 北

(1) 華北ニ於ケル中華民國國旗ノ揭揚制限解除	二月 五日
(2) 華北政務委員會各總處應暫行組織條例ノ制定	二月 四日
(3) 國民政府トノ人的關係強化 汪精衛ノ新民會名譽會長推戴	一月 二十日
華北政務委員會委員長ノ最高國防會議委員任命	一月 二十日
華北政務委員會委員長ニ財政、實業及建設總署督辦ノ全國經濟委員會副委員長又ハ委員任命	一月 二十日
教育總署督辦ノ新國民運動促進委員會委員任命	一月 二十日
(4) 電管理炭礦會社(中興、大汶口、磁縣、山西、柳泉)ノ調整(合辦會社設立)	二月 九日

(2) 青島特別市ノ調整 日系顧問及職員ノ調整	五月 八日			
(3) 廈門特別市ノ調整 日系顧問及職員ノ調整	三月 廿六日			
(4) 特務機關ノ業務調整及名稱變更(連絡部)	三月 卅一日			
四 在支敵産ノ處理				
(一) 在支敵産ノ移管				
(2) 歸屬決定				
第一次	帝國	支那	計	一月 十五日
第二次	五七	八五四	九一一	二月 二日
第三次	九三	一三六	二三五	五月 一日
計	一九三	二四五一	一六四四	

移管通告

第一次及第二次分

九九〇件

二月 八日

移管實施

蒙 疆

一五件

五月 一日

第一次及第二次分第三種中白國系二件ヲ除ク全部

北 支

六
四六件

五月 一日

中 支

一一〇件

三月廿九日

舊英國租界行政監督ノ廢止

天 津

三月廿九日

廣 東

國民政府自置措置（戰爭協力）

最高國防會議設置

一月 九日

行政機構改革

建設部、糧食部及社會福利部ノ設置

一月十三日

全國經濟委員會、新國民運動促進委員會ノ強化（華北ト、連繫強化）

一月二十日

五中全會開催

一月十四日
一月十五日

第二、懸案事項

一、上海共同租界ノ回收（前記参照）

目下支那側ト豫備的會談ヲ行フ一方具體案作成中

二、治外法權ノ撤廢（前記参照）

二月 九日 專門委員會兩國委員任命

二月廿四日 「治外法權撤廢ニ關スル具體案作成要領腹案」作成

三月 四日 專門委員會兩國委員第一回會合

三月 五日 帝國委員宛具體案作成ニ關スル訓令發出

目下帝國委員ニ於テ中央ト連絡ノ上課稅問題ニ關スル日本側具體案作

成中

三 蘇淮地區ノ調整

三月廿九日 「蘇淮特別區ニ關スル調整實施措置要領」決定

同日 在支重光大使宛實施ニ關スル訓令發出

目下通貨問題及建設事業ノ移管問題ニ關シ檢討中

四 日系顧問ノ調整

(一) 中 支

縣政府以下ノ連絡員ヲ廢シ省及特別市政府顧問ハ全國經濟委員會ヨ

リ派遣ヒル日系顧問ノミヲ置クコトトシ現在迄ニ決定ヒルモノ江蘇、

浙江、湖北、廣東各省及上海、漢口、廣州各特別市ナリ

(二) 華 北

臨時政府及青島特別市政府顧問ニ關スル現地協定廢止ニ伴フ善後措

置ニ關シ現地案具申アリタルヲ以テ目下在支大使ニ於テ研究中

五 合辦會社ノ調整

四月 七日 「日支合辦會社調整措置要領」決定

四月 九日 在支重光大使宛實施ニ關スル訓令發出

目下主トシテ中支ニ於ケル合辦會社ニ付具體案作成中

第三、第三國關係事項

一、租界還付及治外法權撤廢ニ關スル態度

(一) 佛 國 二月二十三日一方面的宣言ヲ以テ在支特權拋棄ヲ聲明

(二) 伊 國 一月十四日國民政府ニ對シ在支特權拋棄ヲ通告

(三) 瑞 西 國 三月三十一日同國議會ニ於ケル外務大臣答辯ヲ以テ在支特權拋棄ノ意向ヲ表示セリ

(四) 西班牙國 五月八日附私信ヲ以テ同國外務大臣ヨリ在同國帝國公使ニ宛テ一九二八年ノ西支條約ハ華府會議九國條約調印圖全部ノ意見一致ヲ條件トシ治外法權撤廢ヲ規定シ居ル處西班牙國ハ右規定ト異ル態度ヲ執ルコト能ハサルヲ以テ在支特權拋棄ニ關スル明白正式ナル決定ハ平常ノ狀態回復迄延期希望スル旨申越セリ

(五) 葡萄牙國 未々何等ノ意思表示ナシ

(六) 瑞 典 國 五月二十日同國外務省政務局長ハ在同國帝國公使館員ニ對シ一九〇八年ノ瑞支條約ハ他ノ諸國ノ同調ヲ條件トシ治外法權撤廢ヲ規定シ居ル處瑞典國ハ華府會議ニ於ケル在支治外法權ニ關スル決議ニ加入シ居ルヲ以テ右ト異ル態度ヲ執ルコト能ハサル旨述ヘタリ

(七) 丁 抹 國 三月二十八日附公文ヲ以テ在支同國代理公使ヨリ國民政府外交部部長ニ宛テ一九二八年ノ丁支條約ニ規定セラレアル通り他ノ諸國ノ同調ヲ條件トシテ治外法權ヲ撤廢セントスル同國ノ態度ハ今日ニ於テモ異ルコトナキ旨申越セリ

ニ在支專管租界ノ還付

二月廿四日 在支重光大使宛交渉斡旋ニ關スル訓令發出

(一)佛 國 五月十八日還付實施ニ關スル取極調印(上海佛租界ヲ除

ク)六月五日實施ノ豫定

(二)伊 國 目下交渉中

三、上海共同租界ノ回收

上海共同租界ノミヲ對象トシテ意思表示ヲ爲シタルモノナシ

四、廈門鼓浪嶼共同租界ノ回收

(一)佛 國 四月八日在支同國大使館代表者ト國民政府外交部部長ト

ノ間ニ行政權回收ニ關スル公文ヲ交換ヒリ

(二)西班牙國 四月二十九日同國外務大臣ハ在同國帝國公使ニ對シ國民

政府ノ回收實施ニ對シ抗議ヒサルヘキ旨ノ意思ヲ表明ヒ

(三)瑞典國 五月八日同國外務省政務局長ハ在同國帝國公使館員ニ對

シ(公使丁抹國へ出張中)國民政府ニ於テ回收ヲ實施ス

ルモ瑞典國ヨリハ何等ノ反應ヲ生ヒサルモノト諒解アリ

タキ旨述ヘタリ

(四)丁抹國 五月八日同國總理大臣兼外務大臣ハ在同國帝國公使ニ對

シ回收ニ同意ノ旨ノ意思ヲ表明シ其ノ後在支同國公使ヨ

リ國民政府外交部部長ニ宛テ正式ニ通告越ヒリ

五、北京公使館區域ノ回收

(一)佛 國 三月二十九日在支同國大使館代表者ト國民政府外交部部

事項	実施期日	備考
<p>乙、對支處理根本方針第二要領、三「經濟施策」該當事項</p> <p>第一、實施事項</p>		
<p>長ト、間ニ行政權回收ニ關スル公文ヲ交換トシ</p> <p>イ 伊 國 三月二十九日回收實施ニ關スル取極調印</p> <p>ロ 西班牙國 四月二十九日同國外務大臣ハ在同國帝國公使ニ對シ國民政府ノ回收實施ニ對シ抗議ヒサルヘキ旨ノ意思ヲ表明トシ</p>		
<p>一、物資搬出入許可ノ撤廢及揚子江下流域地域内物資移動取締規程ノ制定</p>	三月十一日	移動制限緩衝ニ關スル日本側及中國側ノ措置、北支モ同時ニ緩和
<p>二、全國商業統制總會設立</p>	三月十五日	物資統制ニ關スル中國側ノ措置
<p>三、中國側經濟取締ノ強化</p>	四月初旬	國積取締及國積資金貸出制限ニ關スル中國側措置
<p>四、北支炭礦軍管理解除</p>	二月九日前	出
<p>五、製鐵事業擴充</p> <p>(1) 北支那製鐵株式會社ノ設立</p> <p>(2) 小型熔鐵爐設置</p>	十二月十五日	
<p>六、中南支ニ於ケル電票新規發行廢止</p>	四月一日	儲備券一〇〇對日本圓及聯銀券夫々一八比率決定ニ對シ右堅持聲明

七聯合準備銀行ニ對スル信用供與（二億圓）
 三月 十日 圓元等價證明

八蒙疆銀行ニ對スル信用供與
 （信用五千萬圓、貸付契約五千萬圓。計一億圓）
 五月 八日

九三億圓借款ニ依ル中央農具製造實驗廠ノ設置
 貸出決定十二
 月二十日

第一、懸案事項

事項	實施期日	備考
一、全國商業統制總會下部機構整備		前出
二、主要合辦會社調整		前出
三、中支ニ於ケル對外交易統制新機構ノ創設		
四、北支ニ於ケル對外交易統制機構ノ改組整備		
五、蘇淮地區ノ通貨調整		前出
六、敵方物資取得ノ統一の方策		
七、新年度收買價格ノ決定		
八、華北輕金屬製造會社ノ創設		
九、國民政府糧食庫券ノ發行		
一〇、中支中央儲蓄會ノ彩票債券ノ發行		